

ん？ツバメ？ にしては ちよつと違う？



近くを横切ると
大きな羽音がする。

雨が降りそうな
日に低く飛ぶため
「雨つばめ」と
ついたとか。

↑アマツバメ
←(アマツバメ科)夏鳥

高速で飛ぶ。翼のシルエットが鎌形。
腰には白い模様がある。
ガガンボやハエ、アブなどを空中で
大きな口をあけて食べる。岸壁などに
集団で営巣する。



↑ツバメ →
(ツバメ科)夏鳥

よく見かけるツバメは
おでこのどの赤色が特徴。
尾羽を開くと白斑が一行に
並ぶのが見える。
雄は、燕尾の一番外側の尾羽が
雌よりも長い。



人が暮らすエリアでよく
見られるツバメ。森林公園
でもビクターセンター「バー
ドピア浜北」付近の、人の
往来が多いところでは毎年
巣作りをしています。空を
見上げれば複数羽のツバメ
が気持ち良さそうに滑空し
ています。

のツバメとは形が違うよう
なのも飛んでいる?!。翼が
細長い気がする…。
そうなのです。それはツ
バメではなく、アマツバメ
です。生活のほとんどを飛
翔して暮らし、交尾や睡眠、
巣材さえも空中に漂うもの
を集めるそうです。そのた
め、歩くのは苦手です。

野鳥にとって人間は脅威です 観察時は、野鳥の暮らしを脅かさないようにお願いいたします

- ・鳥の巣には絶対に近づかない
- ・餌付け禁止
- ・鳥の声の音声を流さない
- ・鳥を追いかけまわさない
- ・場所を占有しない
- ・園路をはずれない
- ・動植物の採取禁止
- ・他の来園者の迷惑になる行為をしない

写真：大川 佳英氏 (1~4p 野鳥の写真) 小倉 敏雄氏 (3p ホトトギスの写真)
本号掲載の写真をご提供いただきました。心より感謝申し上げます。
※撮影地は、静岡県立森林公園以外も含まれます
本号制作にあたり、多くの方にご協力をいただきました。重ねてお礼申し上げます。

参考資料：
『原色日本野鳥生態図鑑』中村登流・中村雅彦（保育社）、『山溪ハンディ図鑑7新版
日本の野鳥』叶内拓哉（山と溪谷社）、『日本の野鳥650』真木広海ほか（平凡社）

ビクターセンター パードピア浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。
■入館料：無料
■開館時間：9:00~16:30
■休館日：毎週水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29~1/3）
■問合せ：☎ 053-583-0443

木工体験館

気軽に木工作業を楽しむことができます。工具はそろっているで、手ぶらでお立ち寄りください。
■木工作：金・土・日
■開館時間：9:00~16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
■休館日：月・火・水と年末年始（12/29~1/3）
■問合せ：☎ 053-583-1559



〒434-0002 浜松市浜北区尾野 2597-7
☎053-583-0443 FAX 053-583-2700
http://kenritsu-shinrinkouen.jp/



春から夏の森の鳥

ん？ この鳥 だれだっけ？

どこかで見たこと
ある模様のような…。
でも色が薄い…。

←シジュウカラ
(幼鳥)



←シジュウカラ (成鳥)
(シジュウカラ科)



成鳥になると、ほっぺの白さを引き立てるように
頭と喉あたりの黒色がくっきりする。
求愛ディスプレイのときにこの白いほっぺを
見せつけるとも言われている。

春から初夏にかけて、見慣れない色柄の鳥を見ることが増えます。図鑑にもドンピシャの鳥が載っていないような…。もしかして珍しい鳥?!
でもしばらくすると他の一羽がやってきて、その鳥の口にエサを？なんだ幼鳥だったのね。
この時期、野鳥は子育て真っ最中。巣立ちをしたもののまだエサを親鳥にねだる若鳥の姿も見られます。大人の羽に生え変わりとつある「変わった鳥」に出会えるのもこの季節ならではのお楽しみ。

エナガ (成鳥) →
(エナガ科)

エナガ (幼鳥) →



まぶたの色が
赤いうちは
まだひよっこ！

枝にぶら下がるなどちょこまかとよく動く。長い尾羽はその際にバランスをとるのに役立つと考えられている。

↑ヤマガラ (幼鳥)

おなかの
オレンジ色や黒色が
ないと違う鳥みたい。

5月には幼鳥の姿が見られるようになる。「ぴいー、ぴいー」と盛んに声を出す。

←ヤマガラ (成鳥)
(シジュウカラ科)



声は聴くけど姿はこんな姿だったの？

春から初夏の頃、空に響く元気のいい声や藪の中から聞こえてくる虫のような声など。いつも耳にはしているけど、その姿を見たことがないという鳥も、案外多いのではないのでしょうか。

「ヒリリッ！！
ヒリリッ！！」
強めの声で鳴きながら空を飛んでいく姿をよく見かけます。

スマートなシルエット。昆虫などを食べる。色柄はハクセキレイに似るがサンショウクイはのど〜腹が白い。

↑サンショウクイ♂
(サンショウクイ科) 夏鳥

♀は頭から背中の色はグレー。

♂も♀も外側の尾羽は白い。

←サンショウクイ♀

「てっぺんかけたか！」と聞きなされるホトトギス。朝でも昼でも夜中でも、ずっと声が聞こえます。

ホトトギス→
(カッコウ科) 夏鳥

ウグイスへの托卵が有名なホトトギス。ウグイスの卵によく似た赤茶色の卵を産む。ウグイスが多く生息する当園では5月中旬頃から声がよく聞かれるようになる。樹上でガの幼虫などを食べる。

園内ではめったにお目にかかれませんが春先なら「ツーチャーピー」というわかりやすい声が響いていることがあります。

センダイムシクイ↓
(ムシクイ科) 夏鳥

↑エゾムシクイ
(ムシクイ科) 夏鳥

「チョイチョイビー」と聴こえ、「焼酎一杯ぐいっ」なんて聞きなしも。

頭から背中、尾羽にかけての上面が黄緑色味のあるオリーブ色。下くちばしはオレンジ色。

ヤブサメ
(ウグイス科) 夏鳥↓

尾羽がとても短い。

ヤブから聞こえる高周波の鳴き声で有名なヤブサメ。「シシシシシ…」の声の主はこんな姿なんですね。

スズメより小さい。目の上の黄色い線（眉斑）と目を横切る黒い線（過眼線）がはっきりしている。

ん？？？ この鳥 だれだっけ？

「この鳥だれ？」の難易度が上がります。当園にやってくる夏鳥御三家といえばオオルリ、キビタキ、サンコウチョウ。三種とも色柄やスタイルが特徴的で声も美しい鳥たちです。でもそれはオス成鳥のはなし。メスとなると、とりわけオオルリ、キビタキはどちらも同じような茶色で、見分けるのが難しい。幼鳥となるとさらに識別は困難です。

雌は頭から上面にかけて淡褐色。尾羽上面が赤茶色。

オオルリ♀→
(ヒタキ科) 夏鳥

オオルリの雄は目の覚めるような美しいブルー。木の高いところにとまり「ヒーリーリー、ジジッ」とさえずる。

←オオルリ♂

オオルリはスズメより大きく、キビタキはスズメよりやや小ぶりです。

キビタキ♀
(ヒタキ科) 夏鳥↓

キビタキの雄は黄色と黒のコントラストがカッコいい。「ピッコロピッコロ」と軽快にさえずる。渡ってきたばかりのときは、「プップップ」と虫のような音を出し激しく縄張り争いをする。

雌は腰に緑色味がある。

←キビタキ♂

↑サンコウチョウ♀

←サンコウチョウ♀
(カササギヒタキ科) 夏鳥

樹間をひらひらと舞うように飛ぶ。雄の立派な長い尾羽、水色のアイリングをパッチリ見られると感動する。

サンコウチョウの雌は短い尾羽。背も茶色でアイリングも細い。雌も鳴く。

鳴き声を「つき・ひ・ほしホイホイホイ」と聞きなし、三つの光（月・日・星）から三光鳥と命名。

キビタキ（幼鳥）
と思われる個体↓

ウグイスとメジロもおさえておきましょう♪

声を知っていても姿を見たことがないという鳥の代表はウグイスかもしれません。



のどをふくらませてさえずる雄。体の上面は緑みのある褐色。雄のほうが雌よりも大きい。



逆に姿は知っているのに、鳴き声は「？」というのがメジロ。「チーチョイチー…」など早口で複雑に鳴く。